

年間第 1 2 主日の説教

金 大烈 神父 2010 年 6 月 20 日 (日)

《信徒は司祭の生きがい》

主の平和！

説教に入る前に宿題（5月30日のお説教で出されたもの）のことについて感じたことを申し上げたいと思います。私のことが好きな人は30人位でしたね。（笑い）30人位の方が心を込めて出して下さいました。書いて下さった方の心を押し量りながら一日に二通ずつ読みました。できるだけ書いた方の立場になってひとつになるようにして読みました。結論としては結構感動しました。そしてこういうことなら私のことが嫌いな人にも続けて勧めたほうがいいと思いました。私が太田教会にいる間いつでもいいです。たぶん書かれた方は自分をよく振り返ってみる機会が持ててよかったと思われるでしょう。頭で考えるのではなく、これから幸せになるために何をしなければならぬかゆっくり考えて書いてみてください。私を意識せず、神様にラブレターを書くつもりで書いて下さい。ほんとに良いことだと思います。

昨日終わったものは何ですか？ 2010年6月19日で終わったことがありますね。「司祭年」です。司祭年が終わりました。教皇ベネディクト16世が1年前に司祭のための年と定め、全世界のカトリック教会が司祭のために祈りました。なぜ教皇が司祭年という特別な年を定めて人々に祈りを求めたのでしょうか？ それには訳があります。それは司祭が司祭らしく正しく立つことができなかつたら、どの教会も崩れるからです。できるだけ司祭らしく聖なる者となるように、信徒のために命を懸けられるように、イエズス様の間で喜びを感じながら自分の使命をはっきり覚えるようにという意向を持って祈って欲しいとパパ様がおっしゃったわけです。1年間沢山の方が司祭のために祈って下さったと思います。私たちの教会ではミサ後「司祭のための祈り」を捧げてきました。この祈りはこれからも続けて下さい。

さあ、私が悪魔の立場だったら一番倒したい相手は誰だろうと考えてみました。誰だと思いますか？ おそらく司祭だと思います。神父を倒せば全てが悪魔の考えた通りに滑らかに動かします。司祭の生きる意味は何でしょうか？ 大きくいえば神様でしょう。神のみ旨に従うこと。しかし、それはある意味で抽象的な話です。本当に生きる力を与える生き甲斐は信徒です。信者の中に司祭の生きる意味を探します。信者の中で喜びがみられなかつたら、信仰の雰囲気が見えなかつたら、その司祭は倒れます。皆様が不幸な顔を毎日していたら司祭はやる気を失います。「なぜ自分は神父になったのか？ なぜこんなところに流されてきたのか？」すぐがっかりして悪魔の誘惑に負けます。結局司祭は信者の中で生きる意味を探します。ということは、皆様の祈りがなかつたら司祭は生きられません。ですから皆様をお願いしたいことは、司祭年が終わっても司祭のための祈りを続けて欲しいということです。

「司祭が少なくなるだろう、だから集会祭儀の練習をしなければならない。」「日本の教会には未来

がない。司祭たちの平均年齢は75歳、どうすればいいか？」「信者たちで集会祭儀ができるようにすればいい。」しかし、それはふさわしくない考えだと思います。そのようなことばかり考えないで、それだけ取り組むエネルギーがあるなら司祭を作るためにがんばりましょう。召し出しのために祈りましょう。祈りながら心を込めて模範を示せそうとすれば、子供たちは司祭になりたいという気持ちを持つようになります。結局、私も他の司祭たちも先輩の司祭たちの何かの魅力的な姿を見て司祭になりたい夢を育て結果的に神父になったんでしょ。

子供や孫のために家庭の中から信仰の雰囲気を作って下さい。今イエス様の弟子である司祭が減っている大きな理由は、家庭の信仰が崩れたためです。家庭の中に信仰の雰囲気があれば、必ず司祭の召命を感じる子供が出てきます。家庭の中に祈る姿が見られなかったら、子供たちは何を見習うのか？夫婦もバラバラになって一週間に一回会うくらいの社会になっている。このようなことがカトリックの家庭でも見られると言えます。これからの子供たちはどうなります？皆様が愛しておられる子供たちのために残すものが重要です。皆様祈りましょう。召し出しのため、跡継ぎのために心を込めて祈って下さい。それが未来の教会、我々の教会を愛するひとつの方法だと思います。

司祭の生きる意味は皆様です。もう一回強調して申し上げます。皆様が司祭のために祈らなかったら司祭は崩れます。それが悪魔の一番大きな狙いかもしれません。もちろん良い司祭のいるところに良い信者ができます。逆に良い信者がいるところに良い司祭ができます。お互いに祈りあう関係を示しています。私を含め司祭たちは皆様のために祈らなければなりません。喜びを感じ、命を懸けなければならない。又皆様も思い出される司祭、知り合いの司祭のために祈って下さい。それができれば教会の未来は問題ないと思います。

皆様、羊飼いと羊の関係はわかりますか？錯覚していることがあります。羊が羊飼いを導こうとすることはありえないことです。秩序を崩したらメチャクチャになります。愛する心で司祭を見て下さい。もちろん気に入らない司祭もいると思います。そのときは祈って下さい。噂したり、悪口を言ったり、嫌な気持ちを持つより「イエス様、この司祭を守ってください。」この一言の祈りでその司祭は悔い改めるかもしれません。皆様がきれいな生き方ができれば司祭は誘惑に負けません。

司祭年は終わりました。教皇様がたぶんこの世の中のいろんな司祭が誘惑に負けて、悩んでいること、教会が危険な状態にあることを感じられて「司祭年」を定められたのだと思います。皆様、これからも司祭たちのために祈りましょう。ともに新しい司祭たちができるよう、召し出しのために心を込めて祈りましょう。

ありがとうございました。